

「とくしま未来創造プラン」の 取組みについて



平成22年7月



「とくしま未来創造プラン」

とくしまの「さらなる飛躍」に向け、県政運営を支えるとともに、
地域主権新時代を積極的にリードする「新たな県政のかたち」を構築
(推進期間:19～22年度までの4年間)

今年度は「総仕上げ」の年
重点6項目の全てについて
取組みを加速

聖域なき財政
構造改革の推進

スピードと成果重視の
経営体づくり

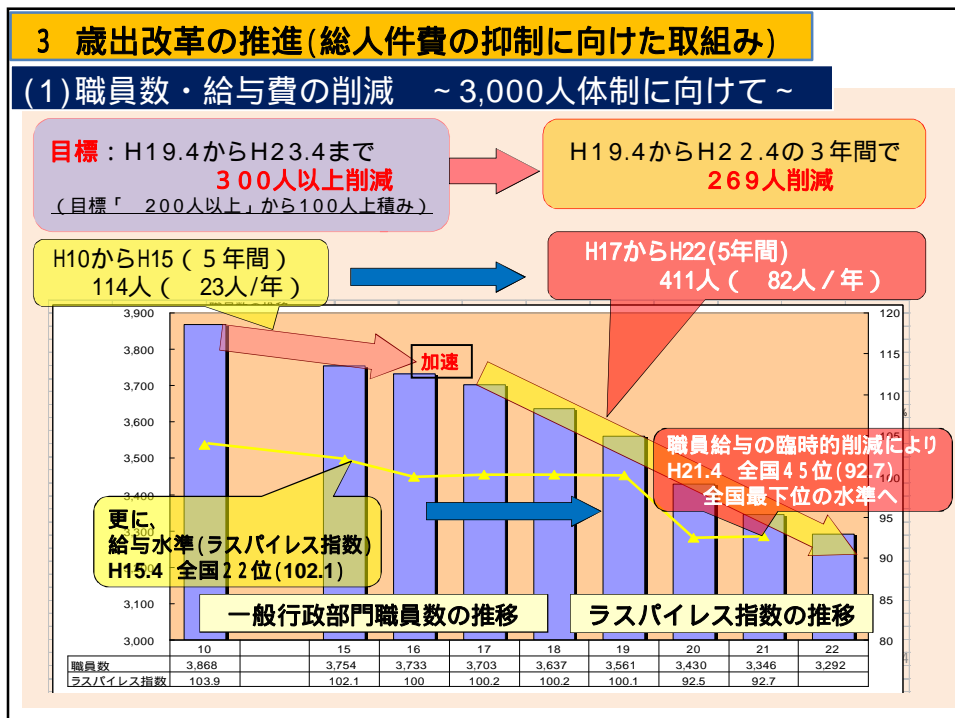
公共空間の
担い手づくり

開かれた
県政づくり

能率の高い
職場環境づくり

飛躍する能力
発揮の場づくり

県民サービスの更なる充実へ



「スピードと成果重視の経営体」づくり

1 時代を先取りする組織改革

(1) 大きな行政体制は完成

県民局の設置(H17~18) → 必要な見直しを進め、一層の定着を
 東部圏域の再編(H20)
 本庁の局制導入(H21)

(2) 今年度新体制整備の重点事項


未来に向け、新たな「成長の芽」を伸ばす体制づくり

- ・「総合メディカルゾーン推進担当室長」の設置(H22.4)
- ・「環境首都とくしま創造センター」の設置(H22.4)
- ・「中国・湖南省友好交流企画員室」の設置(H22.7)
- ・本県初の海外事務所となる「徳島県上海事務所」の設置(H22.11) 等


「ひと」「もの」の能力を最大限に引き出す体制づくり

- ・「外部エコノミスト」を任期付き職員としての採用(H22.4)
- ・「上海事務所」に、現地経済事情に詳しいスタッフを招聘予定 等


政策立案能力や組織執行力を向上



総合メディカルゾーン
新県立中央病院
H23年度 完成予定



環境活動の総合的な支援拠点
環境首都とくしま創造センター
(エコみらいとくしま)
H22年4月オープン






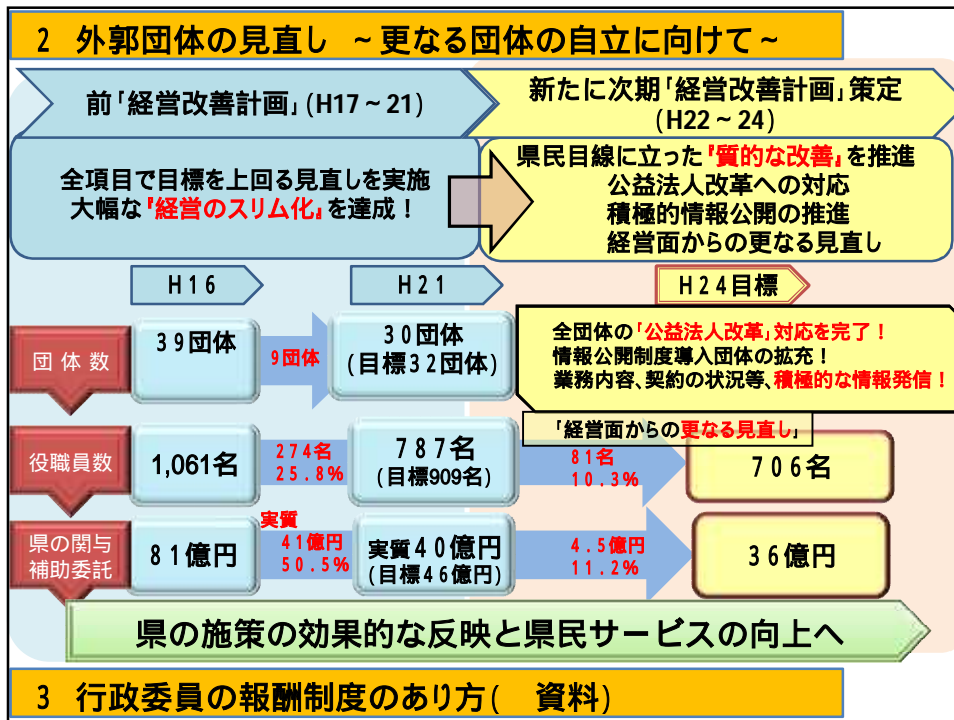
発展著しい中国・上海

1 時代を先取りする組織改革

(3) 今後の主な組織改編等

大きな体制整備は完成、さらなる機能強化に向け改編を継続

- ・看護学院、看護専門学校の統合
県内最大規模の看護師等養成校
「県立総合看護学校」開校(H23.4.1)

- ・保健環境センターが、徳島保健所・製薬指導所の庁舎に移転し、機能集約
「保健衛生及び地域環境の危機管理拠点」の設置(H23.4.1)

- ・本県農業後継者や指導者の養成に係る教育環境の一層の充実
農業大学の「専修学校」への移行(H23.4.1)

- ・工業技術センターと計量検定所との機能連携による、ものづくり支援の強化
計量検定所の工業技術センター敷地内への移転(H23.4.1)
- ・その他、テクノスクールの再編、あさひ学園「運営主体のあり方」検討 等



「公共空間の担い手」づくり

1 官民協働による「新しい公共空間」の創造


(1) 指定管理者制度の導入

18年度から制度を導入し、現在42施設
制度導入からの経費節減額 **約23億円**
今年度、あわぎんホール(郷土文化会館)を始め
11施設で更新手続
新しい提案による更なる県民サービスの向上
更なる経費削減効果
申請者の**利便性向上**と選定手続の**透明性向上**
募集期間 **1か月から2か月へ**
選定委員会 **外部委員を過半数の割合に変更**


(2) PFI事業の推進

初のPFI事業、「**とくぎんトモニプラザ(青少年センター)**」
H22.4 リニューアルオープン
第2弾として、「**農林水産総合技術支援センター**」が申請受付中
H25.4 オープン予定
第3弾は、今年度から、**県営住宅での次世代集約化事業**を計画
H24年度着工を目指して推進中


来年4月に更新される施設例



鳴門総合運動公園



アスティ&くしま



文学書道館

1 官民協働による「新しい公共空間」の創造

(3)「とくしま“トクトク”事業」の更なる推進～創意工夫の3本柱～

県の創意工夫と、県民の「パワー、ネットワーク」を活かし、協働による新しい公共サービスを展開

ゼロ予算事業

H22 155事業

南海地震メモリアル
ライブラリー設置事業
写真等を防災センターで管理

県民との協働推進事業

H22 56事業

官民協働型維持管理
システム実証実験事業
公共施設清掃作業で実験

県民スポンサー事業

H22 24事業

スポンサー付き
道路照明灯事業
電気料金を企業が負担し
引き替えに企業広告

H19(制度発足初年度)75事業
→ H22 235事業

「開かれた県政」づくり

1 情報提供の更なる徹底と県民との情報共有

進化する「政策評価」(評価対象事業の拡大)

- ・「トクトク事業」を政策評価の対象に追加
- ・外部評価の対象事業を倍増 **政策決定の透明化!**

「農山漁村ポータルサイト」の公開(H22.7月～)

- ・県民に役立つ情報を、県と県民とが連携してつくりあげる
- ・「農山漁村ポータルサイト」を構築・公開
- ・携帯でもアクセス可、誰でも手軽に情報発信が可能
- 徳島の魅力発信力強化!**

「会議案内システム」の導入(H22.秋～)

- ・県庁玄関にその日の会議情報を掲載
- 来庁者の利便性を向上!**

情報提供による「県民に開かれた県政」の推進

「能率の高い職場環境」づくり

1 職員の「モチベーション向上」と「働きがいのある職場づくり」

全庁的な「業務・職場改善取組」の実施
 「業務改善取組」に加え、「コンプライアンス推進の取組」も、
 全職場でボトムアップで実施 **職員提案制度の拡充**

「業務・職場改善表彰」及び「事例発表会」の実施
 「業務改善表彰」を「業務・職場改善表彰」に拡充し、
 事例発表会を開催 **改善取組の顕彰と全庁共有**



ワーク・ライフ・バランスの推進
 「県特定事業主行動計画
 (ほほえみ愛 阿波っ子すくすくプログラム)」を
 改定 **仕事と生活の調和**

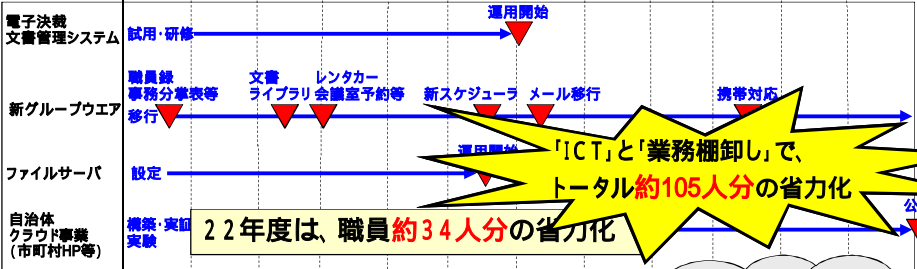


目標管理手法の導入
 自己申告書に目標管理システムを導入 **成果・実績に応じた評価**

2 ICTを活用した業務・システムの最適化

21年度 「総務事務システム」「オンライン・ストレージ・サービス」の導入で
 職員約36人分の省力化を実施

22年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



3 業務の効率化に向けた取組

全庁的な「業務棚卸し」の実施
 全所属において「業務の総点検」を実施

20年度 時間短縮: 約3.2万時間(職員約15人分)
 経費節減: 約4千万円

21年度 時間短縮: 約4万時間(職員約20人分)
 経費節減: 約5千万円

自治体クラウド

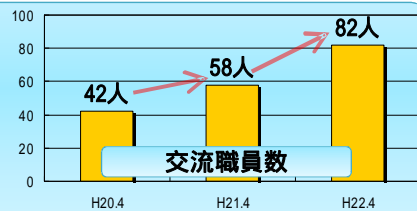
- 大規模なデータセンター
- 仮想化技術を活用
- 開発環境を提供
- 汎用的なアプリケーションを提供

「飛躍する能力発揮の場」づくり

1 「ひと」「もの」の能力を最大限発揮する工夫

職種間交流の推進

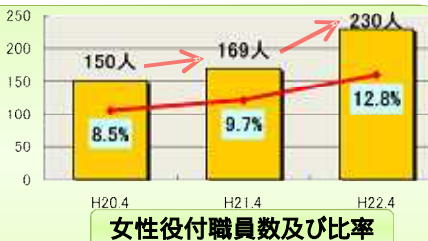
・「事務・技術」の職制区分の撤廃により、
農業職や土木職等の職員の流動化を
促進 **組織のさらなる活性化**



女性の役付職員への登用

・意欲と能力のある女性職員の
係長以上の職への登用

プラン目標(200人)を達成



「とくしま人材能力開発センター」を新設(H22.4～)

・自治研修センターと総合教育センターの連携による新たな研修スタイルの創設
行政職員の研修に教員が参加、互いの施設の有効活用 等

2 「とくしま“人財”バンク」について

新たな「官民協働の社会貢献システム」として
「とくしま“人財”バンク」を設置 (H20.12月～運用)

「とくしま“人財”バンク」

地域人材の活用

県審議会委員等の人材情報をデータベース化、
県立総合大学校人材登録システムの連携・活用

県OBの活用

県退職者及び企業・団体等の人材・求人情報を
データベース化、照合・紹介(一元的マッチング)

情報登録

県退職予定者、地域リーダー、審議会委員等

審議会などの民間人
委員を中心に拡充
登録者数 184人
(H22.5時点)

バンク登録者数
(県退職者) 335人
(内H21年度未退職者80人)
紹介件数 78件
(内 訳)
・民間企業 3
・外郭団体 24
・その他団体 27
・市町村 5
・県(非常勤) 19

「未来創造プラン」達成に向け、
一丸となって「総仕上げ」へ

